

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	木更津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			18	18	7	
	電気電子工学科	夜・通信			14	14	7	
	電子制御工学科	夜・通信			8	8	7	
	情報工学科	夜・通信			18	18	7	
	環境都市工学科	夜・通信			18	18	7	
	機械・電子システム工学専攻	夜・通信		10	6	16	7	
	制御・情報システム工学専攻	夜・通信			4	14	7	
	環境建設工学専攻	夜・通信			2	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ウェブシラバスにて公表 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	木更津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	木更津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>前年度 11 月以降に教務委員会で翌年度のシラバス作成を依頼 各科目担当教員がシラバスを作成してアップロード 新年度 4 月 1 日に下記 Web シラバスのリンク先にて公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/syllabus/</p>	
授業計画書の公表方法	<p>Web シラバス https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/syllabus/</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>1. の Web シラバスに単位認定法は記載 木更津工業高等専門学校学業成績審査規程に則り、シラバスにて周知されている評価割合に基づき評価された成績について、成績審査会議（修了）と成績審査会議（卒業）で単位および履修を認定している。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本科、専攻科ともに成績を A (100～80 点)、B (79～70 点)、C (69～60 点)、D (59 点以下) の 4 種の評点によって評する。D 評点は未修得となる。</p> <p>成績分布把握については、学業成績の平均点で行う。 学業成績の平均点の算出方法は本校学業成績審査規程第 3 条に基づいた授業科目の評点に単位数を乗じたものの総和を、成績評価をおこなった単位数で除算したものである。</p> <p>成績審査会議（修了）で成績評価を適切に実施していることを確認する。</p> <p>下記学生便覧のリンク先参照 学生便覧に掲載/ Web で公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/binran/ 平均点の算出方法についても、上記サイトで公開 1. 学習案内、1-5 成績の評価 の項目参照</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧に掲載/ Web で公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/binran/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>下記学生便覧のリンク先参照 学生便覧に掲載/Web で公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/binran/</p> <p>1. 学習案内、1-9 修了の条件、留年、仮進級、卒業の条件 (4) 卒業の条件 の項目参照</p> <p>成績審査会議（卒業）で成績評価を適切に実施していることを確認</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学生便覧に掲載/Web で公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/binran/ 三つの方針は以下で公開 https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/ の三つの方 針</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	木更津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/jikotenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/ ）
<p>（概要）</p> <p>材料力学・材料分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発の素養を有する技術者を育成する。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針
<p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p> <p>（概要）</p> <p>機械工学に関連する基礎学力、基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用して問題を解決する力を身につけていること。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針
<p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械設計分野、力学分野、熱流体分野、工作分野、材料分野、計測制御分野を中心とした基礎的な機械工学に関する幅広い知識や技術が身につくようにバランスよく授業科目を編成する。 ・ 低学年より 設計製図分野、実験・実習、電気系および情報系科目を配置し、早期に基礎的な加工技術やプログラミング等の知識を身に付け、高学年ではそれらの知識を応用し創造性を発揮する PBL 系科目へ接続するように授業科目を編成する。
入学者の受入れに関する方針
<p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p> <p>（概要）</p> <p>機械工学に興味や関心があり、自ら考え、機械工学に関連するさまざまな課題に意欲を持って取り組みたい人</p>

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/ ）
<p>（概要）</p> <p>電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に関わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成する。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針
<p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>

<p>(概要)</p> <p>電気電子工学分野における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、その知識・技術を応用できる力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、電気電子工学分野に関する幅広い知識が身につくように講義を主体とした科目をバランスよく編成する。 ・ 電気電子工学分野における基礎的及び専門的な知識・技術を応用できる力を身につけるために実習やPBL系科目を編成する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要)</p> <p>電気電子工学に強い興味をもち、学習意欲が旺盛である人</p>

学部等名 電子制御工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <p>制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <p>制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを応用できる力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創造的な技術開発ができる技術者を育成するため、制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識、技術と応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。 ・ 知識と技術の理解に留まることなくそれらを現実の課題の解決のために応用する力が身につくように、実験実習・課題研究・卒業研究を体系的に配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要) 電子工作、機械工作、プログラミングなどのものづくりに興味があり、ロボット技術のように制御、電気電子、機械、情報処理などの技術を融合した知識を身につけたい人</p>

<p>学部等名 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要) 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要) コンピュータハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの知識を習得し、それらを応用する能力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータハードウェア、ソフトウェア、ネットワークとそれらから構成される情報システムに関する知識の習得のため、各分野の基礎的科目を低学年に、より高度な科目を高学年に配置する。 ・ ソフトウェア開発、数理・AI・データサイエンス、情報セキュリティを含む応用分野に関する知識を習得するため、こららに関する科目を高学年を中心に配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>
<p>(概要) 計算機ハードウェア・ソフトウェア技術や情報通信技術に関心のある人</p>

<p>学部等名 環境都市工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>

<p>(概要)</p> <p>構造力学、水理学、土質力学、測量学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境工学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <p>測量学、建設材料学、構造工学、地盤工学、水工学、環境工学、土木計画学、土木施工、土木製図に関する基礎的な知識、技術、応用力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 測量に関する基礎的な知識と技術を身につけるため、低学年から測量に関する講義と実習を系統的に配置する。 ・ 土木工学に使用されるおもな材料について理解するため、低学年から建設材料に関する講義と実験を系統的に配置し、高学年では設計に関する講義を配置する。 ・ 構造力学に関する基礎的な知識を身につけるため、1 年次には力学の基礎を学ぶ講義を配置し、低学年から構造力学に関する講義を系統的に配置する。高学年では設計に関する講義を配置する。 ・ 土と土質力学に関する基礎的な知識を身につけるため、土質力学に関する講義を系統的に配置する。 ・ 水や河川、波に関する基本的な性質と水理学に関する基礎的な知識を身につけるため、水理学に関する講義を系統的に配置する。 ・ 環境問題とそれを解消・予防するための基礎的な知識を身につけるため、環境問題や水環境、上下水道に関する講義を系統的に配置する。 ・ 都市計画と交通計画、および関係する統計手法に関する基礎的な知識を身につけるため、関係する講義をおもに高学年に配置する。 ・ 土木施工や法規に関する基本的な知識を身につけるため、関連する講義をおもに低学年に配置する。 ・ 土木製図の基礎と CAD に関する基礎的な知識を身につけ、設計製図を表現する能力を身につけるため、4 年次にコンクリート構造設計製図を配置する。 ・ 講義で学んだ基礎知識、技術を工学的に応用する力を身につけるため、低学年から実験・実習科目を系統的に配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と人とのかかわりに興味を持ち、自然環境の保全や防災についての理解を深めたい人 ・ 社会に役立つ社会基盤施設の設計や建設について学びたい人
<p>学部等名 機械・電子システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>

<p>(概要)</p> <p>機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。 2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。 3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高専本科で修得した各専門の学力を基礎とし、異なる技術分野を理解して、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、異なる技術分野の基礎科目、技術倫理、環境工学などの共通科目を編成する。 2. PBL 教育やインターンシップを実施し、専門が異なる他者と協働することで広い視野とコミュニケーション能力を養成する。 3. 高専本科で修得した各専門について、より専門的な科目を編成し、各専門分野での高度な技術に関する理解を深める。 4. 特別実験と特別研究を系統的に編成し、問題発見、問題解決能力を有した研究開発型技術者を育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人 2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人 3. より高度な技術課題と先端的な理工学研究課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人 4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して我が国や国際社会に貢献する意欲を持った人

<p>学部等名 制御・情報システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <p>情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する技術を修得し、創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発ができること。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。 2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。 3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>

(公表方法： https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高専本科で修得した各専門の学力を基礎とし、異なる技術分野を理解して、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、異なる技術分野の基礎科目、技術倫理、環境工学などの共通科目を編成する。 2. PBL 教育やインターンシップを実施し、専門が異なる他者と協働することで広い視野とコミュニケーション能力を養成する。 3. 高専本科で修得した各専門について、より専門的な科目を編成し、各専門分野での高度な技術に関する理解を深める。 4. 特別実験と特別研究を系統的に編成し、問題発見、問題解決能力を有した研究開発型技術者を育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人 2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人 3. より高度な技術課題と先端的な理工学研究課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人 4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して我が国や国際社会に貢献する意欲を持った人

学部等名 環境都市工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <p>社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。 2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。 3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高専本科で修得した各専門の学力を基礎とし、異なる技術分野を理解して、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、異なる技術分野の基礎科目、技術倫理、環境工学などの共通科目を編成する。 2. PBL 教育やインターンシップを実施し、専門が異なる他者と協働することで広い視野とコミュニケーション能力を養成する。 3. 高専本科で修得した各専門について、より専門的な科目を編成し、各専門分野での高度な技術に関する理解を深める。 4. 特別実験と特別研究を系統的に編成し、問題発見、問題解決能力を有した研究開発型技術者を育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/shimei/)</p>

(概要)

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人
3. より高度な技術課題と先端的な理工学研究課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して我が国や国際社会に貢献する意欲を持った人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/kohyo/>
<https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	8 人	－					8 人
人文学系	－	6 人	6 人	2 人	0 人	0 人	14 人
基礎学系	－	4 人	7 人	1 人	0 人	0 人	12 人
機械工学科	－	4 人	3 人	0 人	1 人	0 人	8 人
電気電子工学科	－	1 人	6 人	0 人	1 人	0 人	8 人
電子制御工学科	－	3 人	5 人	1 人	0 人	0 人	9 人
情報工学科	－	5 人	4 人	0 人	1 人	0 人	10 人
環境都市工学科	－	5 人	4 人	0 人	1 人	0 人	10 人
その他	－	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		28 人					28 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kisarazu.ac.jp/techno/technocenter/staff/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	207 人	103.5%	人	人
電気電子工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	206 人	103.0%	人	人
電子制御工学科	40 人	44 人	110.0%	200 人	211 人	105.5%	人	人
情報工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	214 人	107.0%	人	人
環境都市工学科	40 人	44 人	110.0%	200 人	213 人	106.5%	人	人
合計	200 人	214 人	107.0%	1000 人	1051 人	105.1%	人	人
機械・電子システム工学専攻	8 人	15 人	187.5%	16 人	30 人	187.5%	人	人
制御・情報システム工学専攻	8 人	14 人	175.0%	16 人	27 人	168.8%	人	人

環境建設工学 専攻	4 人	8 人	200.0%	8 人	15 人	187.5%	人	人
合計	20 人	37 人	185.0%	40 人	72 人	180.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	45 人 (100%)	17 人 (37.8%)	28 人 (62.2%)	0 人 (0%)
電気電子工学 科	33 人 (100%)	16 人 (48.5%)	16 人 (48.5%)	1 人 (3%)
電子制御工学 科	38 人 (100%)	28 人 (73.7%)	9 人 (23.7%)	1 人 (2.6%)
情報工学科	36 人 (100%)	24 人 (66.7%)	11 人 (30.6%)	1 人 (2.8%)
環境都市工学 科	41 人 (100%)	21 人 (51.2%)	20 人 (48.8%)	0 人 (0%)
合計	193 人 (100%)	106 人 (54.9%)	84 人 (43.5%)	3 人 (1.6%)
機械・電子シ ステム工学専 攻	15 人 (100%)	11 人 (73.3%)	3 人 (20.0%)	1 人 (6.7%)
制御・情報シ ステム工学専 攻	9 人 (100%)	3 人 (33.3%)	5 人 (55.6%)	1 人 (11.1%)
環境建設工学 専攻	8 人 (100%)	4 人 (50.0%)	4 人 (50.0%)	0 人 (0%)
合計	32 人 (100%)	18 人 (56.3%)	12 人 (37.5%)	2 人 (6.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度 11 月以降に教務委員会で翌年度のシラバス作成を依頼 各科目担当教員がシラバスを作成してアップロード 新年度 4 月 1 日に下記 Web シラバスのリンク先にて公開 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/syllabus/</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>木更津工業高等専門学校学業成績審査規程（準学士課程） 木更津工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規程（専攻科課程）</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	機械・電子システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	制御・情報システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	環境建設工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/kohyo/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	42,050 円～ 53,350 円	スポーツ振興センター共済掛金 (1,550 円) 教科書代(30,000～40,000 円) 学友会費(10,500 円) 寄宿料(800 円：寮生のみ) 寮友会費(500 円：寮生のみ)
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
	環境都市工学科				
	機械・電子システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	31,150 円～ 41,150 円	スポーツ振興センター共済掛金 (1,550 円) 教科書代(30,000～40,000 円)
	制御・情報システム工学専攻				
	環境建設工学専攻				
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 授業料の免除・高等学校就学支援金／奨学金制度 https://www.kisarazu.ac.jp/nyushi/fee/
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 就職担当窓口、キャリア支援室 https://www.kisarazu.ac.jp/kigyoku/kyujin/ 大学・大学院説明会の開催、ジョブスキルトレーニング講座の定期開催 進路懇談会の開催、会社説明会の開催
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健室、学生相談室 https://www.kisarazu.ac.jp/schoollife/soudan/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/kohyo/
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。